

## 「女性が拓く宇宙航空の夢と未来」シンポジウムの開催報告

2014年9月11日、JAXA 男女共同参画推進室は、シャインウィークス公式サイドイベントとして三菱みなとみらい技術館において、「女性が拓く宇宙航空の夢と未来」シンポジウムを開催いたしました。

宇宙航空分野関連企業や、大学、研究所等で働いている女性や学生など多くの女性たちが参加し、熱心にスピーカーの話しに耳を傾けていました。内閣府男女共同参画局長 武川恵子様の「女性が働く社会に向けて」家事場のパパヂカラでは、「2020年までに指導的地位にいる人の3割を女性」にするとの政府目標や、「近年は女性労働力が高い方が出生率も高くなる傾向にあること」、「日本の男女の諸外国の研究者に占める女性の割合は、1位のロシア41.2%に比べると14.4%と非常に低い。」など興味深いお話しでした。また JAXA 男女共同参画推進室長 塩満典子様の「宇宙航空分野の男女共同参画とイノベーション」では、「JAXAの数値目標として、現在の在職比率8.7%を12%以上、採用比率13.5%を18%以上、女性教授職の採用（1名以上の採用）、子育て・介護による離職率をゼロ、競争的資金獲得額を2倍以上、論文投稿等の件数を1.5倍以上にすることを目指している」との決意を熱く語られていたことが印象的でした。スピーカーの中で一番注目を浴びていたのは、やはり宇宙飛行士の山崎直子様で、彼女のプレゼンテーション「大いなる宇宙へ」では、多くの美しい宇宙の写真とともに、「宇宙に行った人の数は53年の間に500人を少し超える程で、内、女性は1割で約50数人。宇宙飛行士に応募する男女比の割合が9対1なので割合がそのまま、宇宙飛行実績につながっている。より多くの女性が宇宙飛行士に応募すれば、実績につながるのではないか」、「留学時代に70歳を超えている女性の方とお話する機会があった。その女性は現役でヘリを操縦していると聞き、その話に非常に衝撃を受けた。ロールモデルとして、身近にこういう方が存在しているのだと感じた。」など、とても印象深いお話しでした。スピーカーの皆様に対して会場から活発な質問が行われ、会場が熱い雰囲気につつまれていました。非常に実りあるシンポジウムであったと思います。